

# 平成23年度大阪府学力・学習状況調査

## 中学校第3学年

# 国語 B

### 注意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 国語Bの調査問題は、1ページから12ページまであります。
- 3 解答はすべて解答用紙⑥（国語B）に記入してください。
- 4 解答は、HBまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルも可）を使い、**濃く、はつきり**と書いてください。また、消す時は消しゴムできれいに消してください。
- 5 解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄を黒く塗りつぶしてください。
- 6 解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。また、解答欄からは**み出さない**ように書いてください。
- 7 解答用紙は、オモテ、ウラがあります。
- 8 解答用紙の「生徒記入欄」に、組、出席番号、男女を記入し、マーク欄を黒く塗りつぶしてください。
- 9 調査時間は45分です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いまは昔に比べて、商品の数も豊富で、商品の情報もたくさんあるにも関わらず、欲しいものを選んで買うのに、買い物の時間が長くならないのはなぜだろうか。

商品の数や情報の量が多ければ、その中の一つを選ぶのに時間がかかるはずだ。日常的に流通している情報はあまりにも多すぎてとても処理できる量ではない。例えば、スーパーで豆腐とうふを買うだけでも、お店には、いくつもの会社のいくつもの種類の商品が並べられている。どの豆腐がより安全で、栄養価が高くて、よりおいしいか、商品のラベルを見ただけでは判断がつかないだろう。そこで、豆腐に関する情報をインターネットで調べれば、それこそ百科事典※1のついでに匹敵する情報を得ることはできる。しかし、情報を手に入れば入れるほど、商品を比べる要素が増えるため、買う豆腐を選ぶのは難しくなる。

ところが、このような悩みをかかえることは滅多めったにない。実際のところ私たちは、様々な会社から売り出されている豆腐の中から、欲しいものを十秒ほどで判断している。それは、私たちが、論理だけで判断をしているのではなく、脳の働きにより、感情で意思決定を行ってしまうためだ。私たちは、豆腐のパッケージに書いてある「国産は安全」「遺伝子組み換え大豆を使っていない」などの単純な言葉で感情をゆさぶられ、どの豆腐を買うかを決めることが多いのだ。こういった言葉は消費者の感情に強くうったえかける。

何かを買ったり、避さけたりするとき感情で判断すれば、大量の情報をいちいちかいせき解析して判断する必要はなくなる。消費者がどの商品を買うかを決めるのに大量の情報は不要だ。感情を動かすような、ごく少量の単純な情報で十分なのである。

(参考：小島正美「こうしてニュースは造られる」)

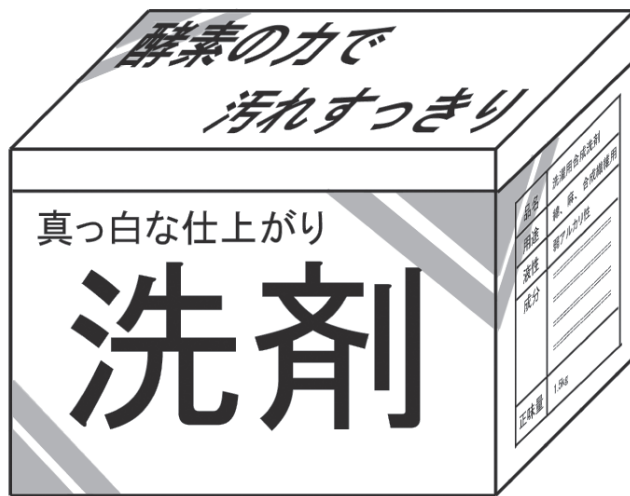
※1 「匹敵」……同じくらいの力があること。

— この文章で筆者が述べている内容として最も適切なものを、次の**1**から**4**の中から一つ選びなさい。

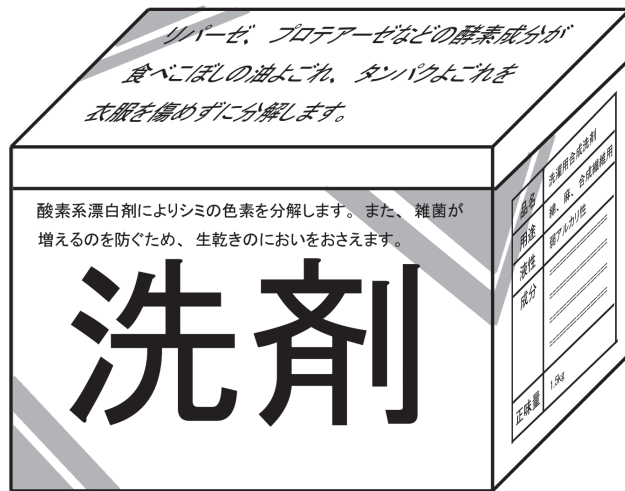
- 1** 消費者は買い物をするときに、大量の情報を手に入れられるようになったが、その量処理しきれないため、商品を選ぶのが難しくなっている。
- 2** 消費者は買い物意思決定を行うときに、大量の情報をもとに判断しているのではないので、以前と比べて買い物の時間にはあまり変化がない。
- 3** 消費者は買い物をする前に、非常に多くの情報を手に入れることができるようになったので、以前と比べて良い商品を選ぶようになった。
- 4** 消費者は買い物のための情報を必要以上に目にする生活に慣れているので、大量の情報を処理できるように、情報を論理的に整理して判断をしている。

二 この文章によると、次の【商品1】と【商品2】を比べて、どちらがより多く売れることになっていきますか。商品を選び、その理由を解答用紙の前後の言葉につながるように書きなさい。

【商品1】



【商品2】



- ※ 洗剤 …… 衣類を洗うために用いる物質。
- ※ 酵素 …… よごれを落とすための化学反応の助けをしているタンパク質。
- ※ 漂白剤 …… 衣類のシミなどを落とすための薬。
- ※ 雑菌 …… 衣類のよごれやにおいのもとになる微生物。

※左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

← 選んだ商品に○をつけなさい。

選んだ商品

【商品1】

【商品2】

なぜその商品を選んだのか

私たちは、買い物をするとき、

から。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

——兄ちゃんが、

と竜二は幼い笑顔で私に言ったことがある。

『おまえは歌がうまい』と言ったと、誇らしげにそう話したことがある。下校前の掃除の時間、小学校の焼却炉しょうきやくろの前でのことだ。

前日、いっしょに風呂ふろに入って、竜二が何か学校で教わった歌をなにげなくうたった時、お前は歌がうまいな、と高志さんがそう言ったのだという。そんな一言を、竜二はかけがえのない宝ものように受けとめて、そしてその宝ものを、幼い両手をそつと開くようにして私に話してくれた、そんなことがあった。——

竜二は、高志さんという兄が、とても好きだった。それだけに、その兄に好まれるような自分でないことを、いつもかなしく思っていた。走るのが速かったり、機敏※1に木へよじ登れたり、あるいはザリガニやヘビをおそれずに平気でつかんだり、そんなふうな自分だったら、どんなにいいだろうと、竜二はいつも思っていた。

「そしたら兄ちゃんと」

(右下に続く▼)

もつと遊べるのに——幼い心で、竜二はいつもそう感じていた。

夏休み中のことだった。

その日、高志さんを先頭に皆で山遊びに向う時、その途中に、よく小魚をとったりしている小さな小川があった。

幅六、七十センチほどのその川を、私たちは※2こともなく飛び越えて、先へ進んだ。少し遅れて私たちについて来ていた竜二は、しかしその川を飛び越えきれずに、川に落ち、前のめりにおられるまま、川岸の石で顔を打った。突然、後ろから聞こえてきた竜二の激しく泣きじやくる声に、私たちは驚いて振り向いた。

「ばかたれっ！」

高志さんは大声で怒鳴りつけると、かけ寄り、そのまま額から血を流す竜二を背負って、走って自宅へ連れて帰った。ものすごい体力である。私たちもドキドキしながら、その後を追った。その後、行きつけの医院で、右のまゆの上を三針ほど縫うことになったのだが、自宅の座敷で応急の手当などをしながら、お母さんは、とつぜん、おかしそうにくすくすと笑いだした。

(左上に続く▶)

そばにいる高志さんと、膝ひざに寝かせた竜二を見比べながら、「——お前たちは、おんなじ私のお腹からでてきたのに、本当に、まるで違うんだねえ」

それがおかしくてたまらないというように、お母さんはいつまでもひとり笑いつづけた。

縁側えんがわに立っていた私たち子分も、なんだかおかしく、くすくす笑ってしまった。お母さんのそんな様子が私たちの緊張を、いつきにはぐしてくれただった。

「竜二はもう、遊びには連れて行かんっ！」

高志さんは破れるような大声で、そう怒鳴った。お母さんのそばで、竜二はただ、痛みもこらえて、しょんぼりしていた。

その翌日、放課後の校庭で、私は、竜二がしきりに何か跳ねているのを見た。

(右下に続く▶)

- ※1 「機敏」……………(反応・動きが)すばやいこと。
- ※2 「こともなく」……………なんとも思わずに。平気で。
- ※3 「縁側」……………日本家屋で、たたみを敷きつめた部屋の外側にある細長い板敷き。
- ※4 「はばかりれる」……………ためらってしまう。
- ※5 「形相」……………(感情をあらわにしたときの)顔つき。
- ※6 「たたずみながら」……………しばらく立ち止まりながら。

近寄り、何をしているのか、ときいた私に、竜二は何も答えなかった。答えなのまま、一人で、何度も走り幅跳びはばとのような真似を、そこで続けていた。

そこには、二本の線が引かれていた。竜二はその線と線との幅を跳ぼうとしているのらしかった。それがあの小川の幅を想定したものであることは、やがて私にもわかった。

線の上にくつも残る小さなくつのあとに、私は、(まだ、跳べないでいるんだな)そう思った。

冷やかすのはばかり※4られる必死の形相※5で、何度も何度もそれを跳ぼうとし続ける竜二のかたわらに※6たたずみながら、私は、子どもなりに、竜二のかなしみがわかる気がした。——

(辻内智貴「竜二」による。)

— この文章の表現の特徴を説明したものと**適切でないもの**を、次の**1**から**4**の中から一つ選びなさい。

**1** 放課後の焼却炉の前で、竜二は兄に「歌がうまい」とほめられたことを、宝もののように話してきた場面を通して、「私」が特別な立場にあるように表現されている。

**2** なにげなくうたってほめられたことと練習しても川の幅を飛び越えられないことのように、竜二が無意識にやってほめられたことと意識しているのにできないことを、対比させるように表現されている。

**3** 竜二の「そしたら兄ちゃん」とや、高志の「竜二はもう、遊びには連れて行かんっ!」といった言葉を効果的に用いて、竜二の高志への思いの強さがわかるように表現されている。

**4** 「夏休み中のことだった」のように、小学校時代のことを「私」が思い出すように書くことで、「私」の思いが具体的に伝わるように表現されている。





前田さんと松本さんは、文化祭での出し物の決め方についてそれぞれ意見を述べています。二人の意見を読んで、あとの問いに答えなさい。

【前田さんの意見】



文化祭の出し物を決めるためには、クラスみんなでじゅうぶん話し合うことが必要だと思います。なぜなら、文化祭は、クラスの団結を深める場だと思うからです。それぞれが自分の意見を発表し、クラスの多くの人が賛成するまで話し合いをするべきです。みんなが納得するものを決めてこそ、最高の文化祭になると思います。

【松本さんの意見】

文化祭は自分たちだけのものではなく、地域のための行事だと思います。だから、出し物についての案をクラスで話し合うだけでなく、地域の人にアンケートをとるなどして、意見を聞く必要があると思います。その上で、もう一度クラスでどのような出し物にするかをみんなが納得いくまで話し合うべきです。保護者や近所の人の意見も取り入れることで、地域の人々にとっても意義のある文化祭になると思います。



一 前田さんと松本さんの文化祭のとらえ方の違いについて、次の表にまとめました。

ア

イ

にあてはまる

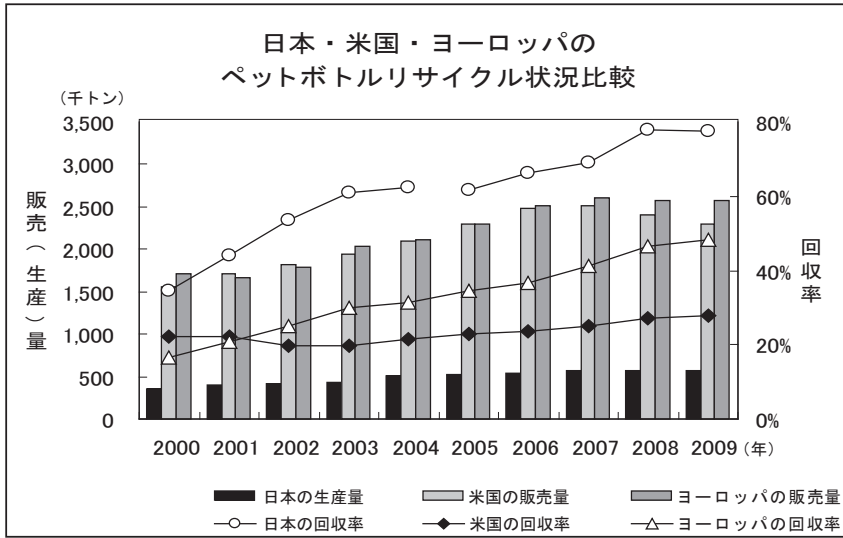
言葉を二人の意見から抜き出しなさい。

前田さん	ア	文化祭のとらえ方
松本さん	イ	

二 前田さんと松本さんの意見は、文化祭の出し物の決め方について、どのような点で共通しているか、二人の意見の中の言葉を  
使って書きなさい。

次の【グラフA】は、日本と米国とヨーロッパのペットボトルのリサイクル状況じょうきょうを表しています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

### 【グラフA】



※ 日本の回収率は、2004年までと2005年からは計算方法が異なるので、グラフが途中で切れています。  
 ※ 縦軸について、日本は生産量、米国・ヨーロッパは販売量になっていますが、量を比較する時に、問題ないものとみなします。(PETボトルリサイクル推進協議会ホームページによる。)

一 【グラフA】から読み取れることとして適切なものを、次の1から4の中からすべて選びなさい。

- 1 日本のペットボトル回収率は、米国・ヨーロッパよりも高い。
- 2 日本のペットボトル回収率は、二〇〇〇年から二〇〇九年の間に、四十ポイントほど伸びた。
- 3 日本のペットボトル販売(生産)量は米国・ヨーロッパよりも多い。
- 4 米国・ヨーロッパのペットボトル販売(生産)量は十年間あまり変わっていない。

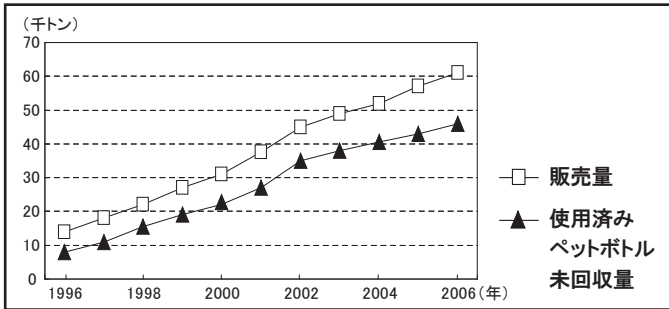
二 次の文章は、竹内さんが【グラフA】から読み取ったことをもとにして書いたものです。竹内さんは、グラフのどのデータに注目しましたか。【グラフA】の中の言葉を使って書きなさい。

### 【竹内さんが書いた文章】

私の家では、ペットボトルは資源ゴミの日にまとめて出している。外では、駅やコンビニエンスストアなど、あちらこちらにある専用のゴミ箱に分別して入れている。学校の指定カバンは、ペットボトル再利用品だ。私の身近なところでは、ペットボトルリサイクルは当たり前になっていると感じたが、それは日本社会全体にも言えることだとわかった。

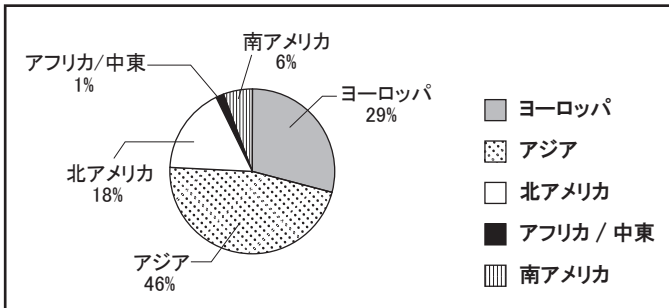
1

米国のペットボトル販売量と使用済みペットボトル未回収量の推移



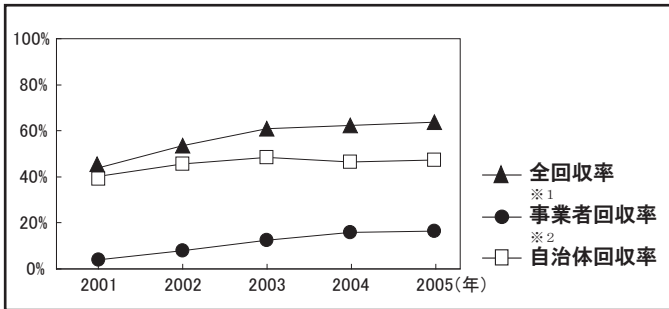
2

世界のペットボトル回収量の割合 (2010年)



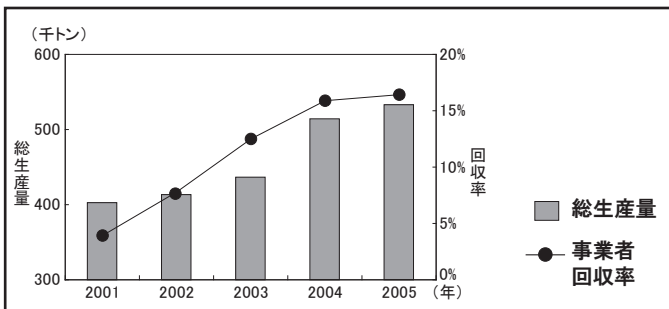
3

日本全体のペットボトル回収率と、事業者および自治体による回収率の変化



4

日本全体で生産されたペットボトルの量に対して、事業者で回収されたペットボトルの量がしめる割合



※1 「事業者回収率」 ……スーパーなどの回収率

※2 「自治体回収率」 ……住んでいる市町村での回収率

【小川さんが書いた文章】

日本でのペットボトルの回収率は伸びている。スーパーなどの事業者の回収率が伸びたことが大きい。いつでも持って行けるので、私も買い物に行くついでに、気軽に利用している。一方、自治体の回収率は横ばいになっている。自治体でも何か工夫ができるのではないかな。

三 次の文章は、小川さんがあるグラフから読み取ったことをもとにして書いたものです。小川さんは、どのグラフをもとにして書きましたか。あとの1から4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

これで、国語Bの問題は終わりです。